

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 40 令和5年12月19日(火)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 附中のシンボルとは

生徒会役員選挙も終え、代替わりが着々と進んでおります。3年生においては、卒業期活動の準備が進められております。先日、卒業記念誌「大樹」について質問をするために、何人かの文集係が教務室に来ました。

「メディアルームで色々調べたけど、卒業記念誌『大樹』の名前の由来が分かりません」

本人たちは、なぜ『大樹』なのかが分からない限り、自分たちでふさわしい名前を付けてもいいとまで考えていたようです。附中生らしいなあと思うと同時に、とても素晴らしい動きだと思いました。何をやるにしても、その目的や意義が分からないと取り掛かれない。附中生のこの姿勢から、実際私自身も多くの事を学ばせてもらいました。

私のその時の返答は、

「今の西大畑町校舎に移転する前の旭町校舎では、玄関にそれは立派なくすのきが生徒玄関前に構えていたので、その木を指していると思われるよ」

という曖昧な回答でした。気になった私は、その後自分でもメディアルームの書籍を調べたのですが、『附中の三十年』という周年記念誌に、次のような記述を見つけました。

この頃のことで特筆すべきこととしてあげなければならないものに、文集“大樹”の発行があります。昭和三十六年に、全校生徒の作文集として創刊され、四十六年まで、九年間続きました。残念ながら、学級増に伴い、編集の仕事が膨大になったことや、経費の関係などで、四十七年度以降中断されたままになっています。“大樹”の名は今も三年生の卒業文集に留められています。

～中略～

スライドの像は玄関前の大樹“くすのき”の下に立っているもので、二十周年を記念して同窓会の皆さんが贈呈してくださったものです。“翔”と刻まれ、「後輩よ、未来に向かってはばたけ！」と呼び掛けています。附中生の発展と向上を象徴しているものです。

上記から分かることは、

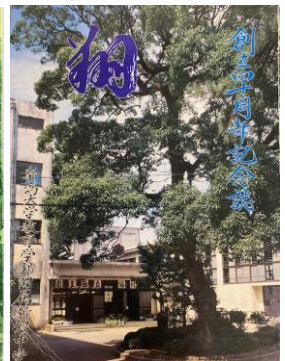
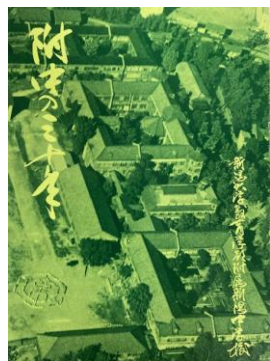
- ・ 『大樹』は当初全校生徒の作文集の名前であったこと
- ・ それが三年生の卒業文集の名前になったこと
- ・ 『大樹』とは、『くすのき』を意味しているということ

『くすのき』は校舎の移転に伴い、一緒に旭町校舎から西大畑校舎に移植されましたが、当初あまり元気がありませんでした。今は何とか持ちこたえているようですが、当時のような枝ぶりではありません。当時の元気な姿に戻ってこれたらいいのですが・・・

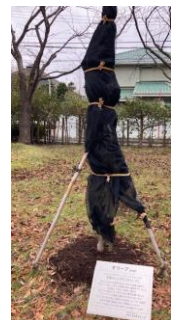
有形、無形にこだわらず、皆さんにとっての附中のシンボルとは何ですか？



『大樹』のバックナンバー



周年記念誌表紙写真：旭町校舎と玄関前のくすのき



現在のくすのき(左)と  
令和のシンボルオリーブ(右)



『翔』の像  
現在の生徒会誌  
『翔』の名前の由来となる像で、20周年の記念として贈呈された物